

社会科（公民的分野）学習指導案

1. 単元名「地方政治と私たち ～政治参加をしてみよう～」

2. 単元について

（1）単元観

本単元は、学習指導要領の公民的分野「（2）C 私たちと政治（2）民主政治と政治参加」に基づいている。この中項目は「地方自治の基本的な考え方」について理解した上で、「地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務」についても理解をすることとしている。そして、この中項目で身に付ける思考力、判断力、表現力等では、「国民一人一人が政治に対する関心を高め、主権者であるという自覚を深め、主体的に政治に参画することについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすること」をねらいとしている。

地方自治とは、その地方に住む人々が身近な地元の事柄について、自分たちで考え、地域の政治を行うことを指している。それは、英人ブライスによる「地方自治は民主主義の学校」という言葉にもあるように国民の最も身近な政治参加の機会であることにつながる。地方自治に関する基本原則は、日本国憲法の第8章に明記され、地方公共団体（地方自治体）に対して、地方自治を認めている。このような住民自治を基本とする考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きの中核となっている。

地方公共団体には、都道府県と市（区）町村がある。それぞれ議会がおかれ、都道府県知事や市（区）町村長といった首長と、都道府県議会や市町村議会の議員が住民の直接選挙で選ばれる二元代表制をとっている。また、住民の意思を強く生かすために、選挙で首長や地方議員を選ぶだけでなく、住民の直接請求権が認められている。地方公共団体は、住民によって住民の生活に結びついた様々な地方行政が遂行されている。例えば、小中学校の設置やごみ処理や下水道の整備、消防、福祉などが挙げられる。こうした地方行政を行うために、条例が制定されている。そして、この活動を支えるために地方公共団体が収入を得て、それを支出する経済活動のことを地方財政という。地方財政には、自主財源である地方税と、依存財源である地方交付税交付金、国庫支出金などがある。地方財政の多くが依存財源に頼らざるを得ず（3割自治）、財政難に苦しむ地方公共団体が多いのが現状である。財源の安定を図るために市町村合併や地方分権が進められ、過疎化の地域では、町おこしなど独自の取り組みで地域の活性化を図る地方創生が行われている。各地域で課題があるため、自分の住む地域を知ること、課題解決を考えていく必要がある。

千葉市は、千葉県のほぼ中央の北西寄りに位置している。東京湾に面し、市原市をはじめ9つの市に隣接し、海岸沿いには低地が広がっている。気候は比較的温暖である。大正10年に市制施行により千葉町から千葉市となり、隣接町村の合併や海岸の埋め立てなどにより市域が拡大していき、2021年に市政100周年を迎えた。農業人口は全国同様減少傾向にあり、高齢化が進んでいる。野菜をはじめ、米・花き・畜産など多様な農業生産が行われている。特に野菜は産出額が伸びており、花見川区、緑区、若葉区を中心に露地野菜の栽培が行われている。農家数や耕地面積では、若葉区、緑区、花見川区の順に高い数値が並んでいる。工業においては、東京湾臨海部への素材・エネルギー型産業の展開に始まり、内陸部への計画的な工業団地の整備推進により発展をとげている。商業では、中央区に多く集中し、大型デパートや様々な商店が立ち並ぶ。新しい小売業として、コンビニエンスストアや郊外型・複合型大規模店などが多く出店してきており、特に美浜区の幕張新都心でみられる。人口は、高度経済成長期に大きく増加し、総武線沿線を中心に宅地開発・大規模な住宅団地が造成された。現在は少子高齢化が進み、国際化の波にも対応することが必要である。交通では、都心や成田国際空港につながる鉄道や道路があるが、花見川区、若葉区、緑区には路線が少なく、地域によって差がみられる。

千葉市の現状として令和4年の資料をみると、千葉市の総人口は、2020年代前半をピークに減少に転じる見通しである。中央区の人口は増加するものの、そのほかの区が横ばいもしくは減少する見通しである。人口

構成をみると、年少人口、生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加し、高齢化率においては、2040年には33.2%にまで上昇する見通しである。世帯数は、2030年ごろにピークを迎え、平均世帯人員は減少が続く見通しである。財政においては、平成21年10月に「脱・財政危機」宣言を発し、徹底した財政改革を行うことで財政の健全化を図った。千葉市の財政力指数（地方公共団体の財政力を示す指数）は、他政令市と比べ歳入に占める市税収入の割合が高い方であるものの、経常収支比率（市税や地方譲与税といった経常的に収入される一般財源が、人件費や扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費にどれだけ充てられているかを示す指標）は、政令市平均を下回る水準となっており、うまく活用できていないことがわかる。歳出では、新型コロナウイルス感染症対応にかかる財政需要とともに、少子・超高齢社会の進展や保育・子育て環境の向上に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれるほか、新庁舎や新清掃工場、幕張豊砂駅、新病院などこれまで取り組んできた公共公用施設の整備への対応により、厳しい収支状況となっている。

千葉市の施設をみてみると、保育所（157か所）、幼稚園（90か所）は多数あり、公民館（47か所）の数も多いことがわかる。図書館（14か所）は少ないようにみえるが、公民館にも併設されているところもあり、大きな図書館から本を借り入れることも可能である。しかし、高齢者介護施設（15か所）、清掃工場（5か所）、観光施設（11か所）は少ない。これらのことから千葉市の課題は、人口減少、少子・超高齢社会の進展に加え、将来にわたる持続可能な行財政運営の実現に向けた都市の活力維持への対応を進めることだと考える。過去の負債の解消をするために自主財源の根幹を占める市税を増やしていくことが重要である。また、人口や人口構成に応じた施設を建設し、住民を呼び込む工夫が必要である。

本校は、全体的に落ち着いており、授業内の課題も意欲的に取り組む生徒が多い。授業内では、発問に対して発言はあまり多くはないが、班別活動になるといろいろな意見を出すことができる。年度初めに行ったアンケートの中で社会科が好きかの問いに対して、「すごく好き」「まあまあ好き」を合わせると51.8%と半数を超えた。知識がすでに身につけている生徒も多く、世の中のことについて知る楽しさを感じる生徒が多かった。その反面、「覚えるだけで楽だから」「覚えれば安定した点数が取れるから」という理由も見られた。本単元は、すでに機能している社会システムを「静的」にとらえる、いわゆる暗記学習になりやすい。また、18歳で選挙権を得るようになり、生徒がテレビなどを通して選挙や国政に触れることは多くても地方自治に触れる機会は少ない。しかし、地方自治は意識すれば触れることが可能なものである。身近な地方自治の知識を得たことで、千葉市の人口、施設、財政など多面的・多角的に考察し、何が必要なのか、実際の生活に結び付けることで知識の詰め込みだけではない社会科の楽しさを味わうとともに、思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指したい。

そこで本単元では1～3時間目に既習の対立と合意、効率と公正、民主主義といった見方・考え方に着目し、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組みなどを捉えさせる。4時間目に、自分たちの住む千葉市について調べ、人口や世帯数、施設や土地の利用状況を知るといった千葉市や行政区について大枠を理解させる。また、千葉市の今後の傾向を調べ、千葉市の課題についても理解させる。そして、5時間目にこれらの千葉市のどの課題からどんな施設があつたら千葉市のよりよい未来に繋がるのか考えさせる。大枠として、①総合公園（住みやすい街づくりにより人口を増やす）②ホテル（働く場所、国際化に対応）③総合福祉センター（超高齢社会に対応）④近未来型ショッピングモール（観光客を増やすことで財政を潤す）を設定し、最初に個人で考えさせる。次に班で話し合い活動を行い、最終的には、クラスの考えを聞くことで多面的・多角的な考察へと導く。地方自治への参加を促す授業を展開していく。知識を得てテストでいい点が取ればよいではなく、得た知識を利用して実際に住民として地方自治に参加する意欲をつけることを第一の目的とする。地域の住民として、地域の現状や課題を理解し、よりよい地域の未来のためにどのような判断をし、行動することができるかを考える第一歩となるような授業を目指す。最後に、今まで学んだものをワークシートに記入し、理解の定着と知識の活用について考えさせたい。

2. 単元の目標

- ・地方自治の基本的な考え方について、理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。【知識及び技能】
- ・対立と合意、効率と公正などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。【思考力・判断力・表現力等】
- ・民主政治と政治参加について、現代社会にみられる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう力・人間性等】

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○地方自治の基本的な考え方について、理解している。 ○地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	○民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

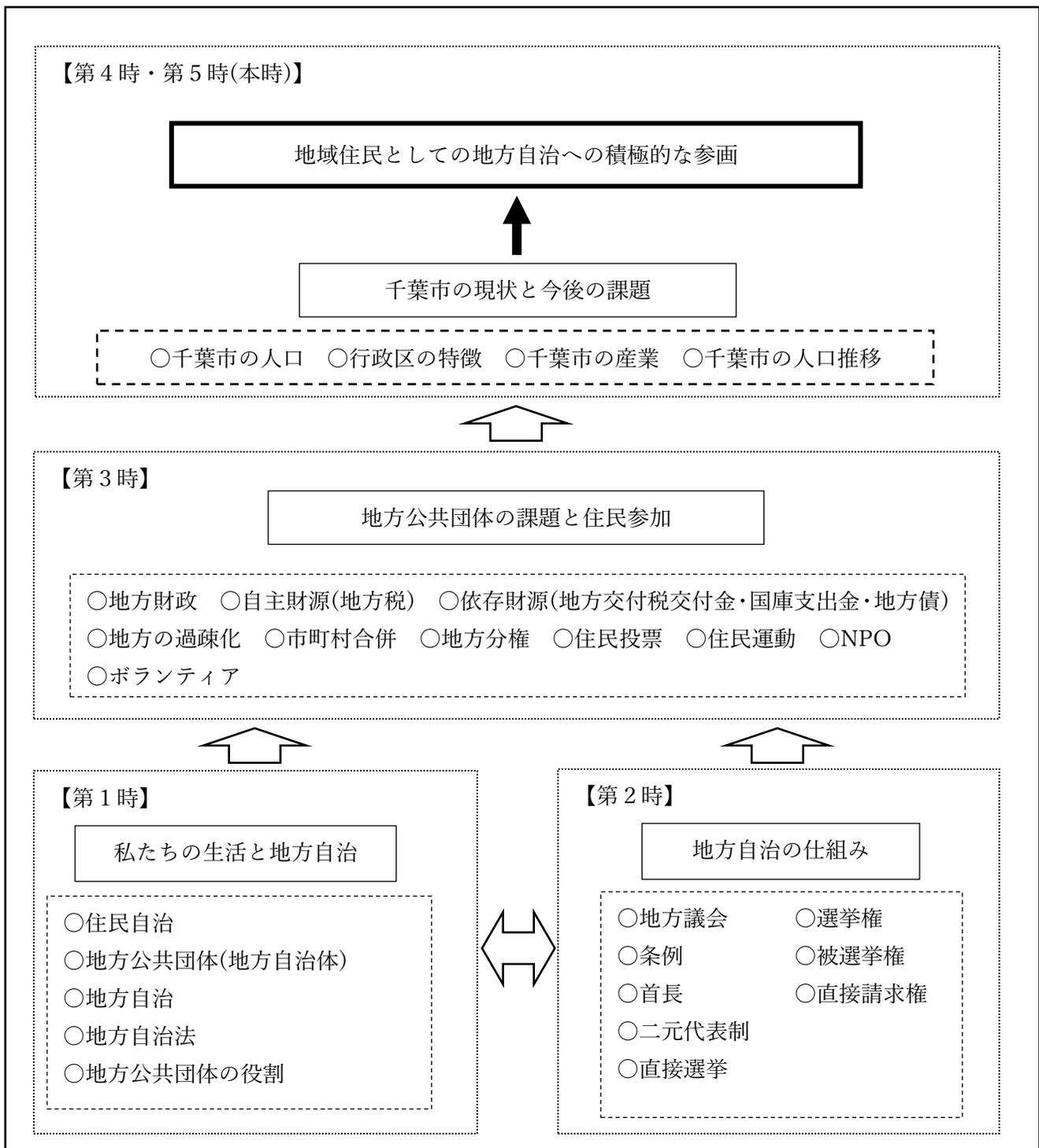
4. 単元の指導計画

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時	◇ねらい・学習内容及び学習活動	知	思	態	評価
1	◇住民自治を基本とする地方自治の考え方であることを理解する。 ・地方公共団体の役割について理解する。 ・地方自治がどのような考えに基づいているか、地方自治の原則に着目して考察する。	●	○		●地方公共団体の役割について理解している。 ○地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれる理由について、地方自治の原則に着目して、考察している。(振り返りシート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元を貫く学習課題 持続可能な地方自治をするためには、どうすればよいのだろう。 </div>					
2	◇地方行政と国の政治との違いを踏まえ、二元代表制の仕組みについて理解する。 ・地方自治の仕組みについて理解する。 ・地方自治での二元代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察し、表現する。	●	○		●地方議会や首長が果たしている役割について、本文の読み取りを通して理解している。 ○地方自治での二元代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察している。(振り返りシートを記入)

3	<p>◇地方財政や過疎化など地域によつての課題について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方財政について理解する。 <p>・地方公共団体にはどのような課題があるかについて理解する。</p> <p>◇国民一人一人が政治に対する関心を高め、主体的に政治に参画することについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解する。 ・住民の権利や義務について理解する。 	●	○	<ul style="list-style-type: none"> ●地方公共団体の財政を支える収入について、本文や資料の読み取りを通して理解している。 ○自分が住む地方公共団体の課題を調べ、解決のために自分にできることを考察、表現している。(振り返りシートを記入) ●住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解している。 ●住民の権利や義務について理解している。
4	<p>◇千葉市の現状について、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉市について『伸びゆく千葉市』を活用し、プリント学習で千葉市の大枠について理解する。 ・千葉市の現状、課題を班ごとに調べる。 ・改善するための施設の提案を理解する。 	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市や行政区の大枠について理解している(スライド) ●班員と協力し、千葉市の課題をみつける。(スライド)
5 本 時	<p>◇千葉市の現状を踏まえ、将来的に健全な自治を行っていくにはどんな施設を建設すべきなのか、多面的・多角的に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えをまとめる。 ・千葉市の課題から、どんな施設があれば千葉市のよりよい未来のためになるか班で順位をつける。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ○千葉市の現状・課題を理解し、よりよい千葉市をデザインするために何が必要なのかを考察している。(ワークシートを記入) ●千葉市をよりよくしようと積極的に話し合い活動をすることができる。

5. 思考の深化に対応した指導計画



6. 本時

(1) 本時の目標

- ① 千葉市の現状を踏まえて、将来的に健全な自治を行っていくにはどんな施設を建設すべきなのか、考えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ② 地域の担い手として、主体的に社会に関わろうと粘り強く取り組むことができる。【学びに向かう力・人間性等】

(2) 本時の展開

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価の視点
導入 5分	<p>○前回学習した千葉市の課題について復習する。</p> <p>○千葉市の課題を踏まえて、よりよい千葉市にするためにどの施設をつくるべきか①～④の施設の特徴を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>①総合公園…住みやすい街づくりにより人口を増やす</p> <p>②ホステル…外国人の働く場所、国際化に対応</p> <p>③総合福祉センター…超高齢社会に対応</p> <p>④近未来型ショッピングモール…観光客を増やすことで財政</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>千葉市の課題から未来をデザインしよう！</p> </div>	<p>・TV にギガタブのスライドを映しながら、アニメーションを使い、前回の復習をする。</p> <p>・TV を使って、スライドで4つの施設の特徴を説明する。</p> <p>※前時の最後に1度説明しているので簡単に行う。</p>	
展開① 15分	<p>○4つの施設から何がいいか理由を含め、根拠を明確にして個人で考える。</p>	<p>・ワークシートを配付する</p> <p>・TV に4つの施設の特徴のスライドを映し、見られるようにしておく。</p> <p>・千葉市の課題を考え、資料などから根拠をもって選ぶよう、伝える。</p> <p>・机間指導を行い、ワークシートに記入ができていない生徒には声をかける。</p>	<p>○千葉市の課題を踏まえて、よりよい千葉市にするためにどの施設をつくるべきか、根拠を明確にして考えることができたか</p> <p>【思考・判断・表現】(ワークシート)</p>
展開② 15分	<p>○班になって、意見の交換をする。</p> <p>・班ごとにどの施設がよいか、優先順位をつけ、その理由と根拠となった資料名をワークシートに記入する。</p> <p>・発表する人を決めておく。</p>	<p>・TV に4つの施設の特徴のスライドを映し、見られるようにしておく。</p> <p>・多数決で決めるのではなく、班員の意見を聞いた上でどの優先順位がいいか決めるよう、声をかける。</p> <p>・効率と公正や少数意見も取り入れるよう声かけをする。</p> <p>・机間指導で話し合いの様子や別の視点を見つけておく。</p>	<p>○積極的に話し合い活動が行えたか。【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート)</p>
展開③ 10分	<p>○1班から順に発表する。</p> <p>・なぜ、その順位になったのか、マグネットシートをホワイトボードに貼りながら、理由を述べる。</p> <p>※時間に余裕があれば、更なるアピールや他の班の批判等を発表する。</p>	<p>・マグネットを各班に渡す。</p> <p>・発表をきちんと聞けるよう、身体の向きを変えるよう促す。</p> <p>※データから根拠を考えたものをアピールポイントとなるように注意させる。</p>	

<p>まとめ 5分</p>	<p>○身近な千葉市の具体的な事業例から、住民として意見をもつなどの重要性について理解する。</p> <p>○ワークシートに今日の授業の振り返りを記入する。</p>	<p>○特別史跡加曽利貝塚グランドデザインについて紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加曽利貝塚を整備することにより、より魅力を発信し、地域住民の満足度を高めるとともに市外からの来訪者を増やすことを目的としている。 ・今後施設整備として、私たちの税金が使われたり、利用者の利便性を確保しつつ、交通量の増加における地域住民の安全・快適な交通ネットワークの整備等が必要になるため、一人ひとりが課題について自分なりに理解し、自分のためだけでなく、千葉市のよりよい未来のために何をどうすることが一番適切なのか考え、意見を表明することが重要であることをスライドを利用して伝える。 	<p>※時間に余裕があれば、ZOZOマリンスタジアムの建て直しについて紹介する。</p> <p>・浜風などによる施設の劣化などから改修もしくは建て替えの案がでている。今後10年ほどかけて、市民の意見を聞き、基本計画などをまとめていくので、千葉市のよりよい未来のために何をどうすることが一番適切なのか考え、意見を表明することが必要であること伝える。</p> <p>○本時の学習を振り返り、地域の担い手として主体的に考えることができたか。【主体的に学習に取り組む態度】(ワークシート)</p>
-------------------	--	--	--

(3) 評価

評価基準	A	B	C
①千葉市の現状を踏まえて、いま必要なものを自分なりに考えることができたか。【思考・判断・表現】	◇ワークシートの回収 千葉市の現状を踏まえ、千葉市民や財政などを考えた上で千葉市に必要なものは何かを考えることができた。	◇ワークシートの回収 自分なりに千葉市に必要なものは何かを考えることができた。	◇ワークシートの回収 班員と一緒に千葉市に必要なものは何かを考えることができた。
②地域の担い手として、主体的に社会に関わろうと粘り強く取り組むことができたか。【主体的に学習に取り組む態度】	◇ワークシートの回収 話し合い活動の中で積極的に自分の意見を述べたりするなどギガタブを有効に活用し、活発に話し合いをすることができた。	◇ワークシートの回収 話し合い活動の中で、ギガタブを活用して自分の意見を伝えることができた。	◇ワークシートの回収 話し合い活動の中でギガタブを通して話し合いができた。

7. 思考の構造図

【事実に認識の第3段階】

「地方自治」とは、地方公共団体(自治体)の行政がその住民の手によって責任をもって処理されることであり、近代国家における民主主義の最も基本的な考え方である。そのため、住民が地方公共団体の行政(市政)や財政状況、地方議会議員選挙、地域の活動・課題などへの関心を高め、一人一人が地方自治の形成者である自覚をもちながら地方自治に参画することで課題の解決に繋がる。

【事実に認識の第1・2段階】

A 地方公共団体は住民自治と団体自治の考えに基づき、地域の特色にあった政策を実施している。

- a 私たちが生活する地域は、地方公共団体によって運営されている。
- b 住民の幸福を実現するためには、住民の意思に基づいて地域を運営する住民自治が必要である。
- c 地方自治とは、地方公共団体の行政がその住民の手によって責任をもって処理されることである。
- d 地方自治法により、地方公共団体の団体自治と住民自治による地方自治の確立が定められている。

B 首長・地方議会選挙に参加し、必要に応じた直接請求権を行使することで、私たちが生活する地域がより良いものになっていく。

- a 地方自治では、住民が首長と地方議員の2種類の代表を選ぶ二元代表制が採られている。
- b 地方議会は、地方公共団体独自の法である条例を定めたり、予算の議決などを行っている。
- c 首長は、議決した予算を実行したり、地方公共団体の税金を集めたりしている
- d 首長と地方議会は、互いに抑制しあい、均衡を保っている。
- e 住民は、直接請求権によって首長・地方議会の解職・解散請求、情報開示を求めることができる。

C 地方公共団体は、人口・地理的要因・観光資源などにより自主財源に大きな差があり、格差是正のため国が一部を負担したり、財源を移す地方分権が行われ、過疎地域では様々な取り組みが行われている。

- a 地方公共団体の経済活動のことを地方財政という。
- b 地方公共団体の収入は、独自に集める自主財源と国などからの補助である依存財源がある。
- c 自主財源の中心は地方税で、割合は4割程度しかなく、「4割自治」となっている。
- d 財政状況の悪い地方公共団体では、公務員・事業の削減、市町村合併などを行い、財政立て直しの取り組みが行われている。
- e 国の事業や財源を地方に移す地方分権が進められている。
- f 過疎地域では、経済活動の支援や地方移住の推進などを行い、人口減少を食い止め地方創成を進める取り組みを行っている。

【事実に認識の第1・2段階】

※第4時の千葉市に関する内容

D 千葉市は将来的に人口減少、少子化、高齢化が進んでいくので、これらの課題や現状をふまえて、地域住民として何ができるのか考えることが、課題解決につながることになる。

- a 千葉市の人口は2020年代前半をピークに減少の一途を辿り、令和32年には90万人、52年には80万人を切ると予想されている。
- b 千葉市の行政区では、早いところ(花見川・稲毛・若葉・緑区)は令和7年、遅くとも令和22年(中央区)から人口減少が始まる。
- c 千葉市の人口(R2)の内、「15~64歳人口」から「65歳以上人口」を引いた数は33万を維持していたが、令和17年には30万、令和22年には20万を下回り、高齢化率は最大33.2%まで上昇する。
- d 中央区は政治・経済・文化の中心地。花見川区は桜並木、釣りやサイクリングが楽しめる自然豊かなまち。稲毛区は千葉大学などの恵まれた教育環境を活かした文教のまち。若葉区は縄文文化の研究・発信拠点で、千葉市の農業をけん引するまち。緑区は緑あふれる公園などが点在し、酪農・養豚・畑作などが営まれているまち。美浜区は業務研究、タウンセンター、住宅、文教、公園・緑地をバランスよく配置しているまち。

